

保全の対策を考える

食物連鎖の上位に位置している生きものを保全する

食物連鎖の上位にある生きものたちは、農村の環境の中で広いなわばりを持って捕食します。また、托卵などの行動をとる生きものもいます。こうした生きものたちを保全するためには、広い環境をセットとしてとらえて保全するとともに、関連する他の生きものもセットとして考えて保全する必要があります。

●フクロウを定着させ、ノネズミなどを食べてもらう

農村にすむ生きもののうち、フクロウ、オオタカなど食物連鎖の上位に位置している生きものは、広い空間を必要とします。たとえば、フクロウは屋敷林や社寺林の大木の洞に巣を作り、雑木林でアカネズミ、耕地でハタネズミなどを捕食します。だからフクロウが生息するためには、屋敷林や社寺林、雑木林、耕地など、農村の生産単位(大字単位)をセットとして保全することが必要です。

フクロウが食べるノネズミ類は農業上の有害動物です。このことから食物連鎖の上位に位置している生きものを天敵として活用し、地域農業の発展につなげることが可能になります。林が雑木林中心で、洞があるような大木がない場所では、巣箱を設置して洞の代わりにします。



フクロウ



オオタカ



カヤネズミ



ハタネズミ



ハツカネズミ

保全・再生への取組み事例

フクロウの保全

特定非営利活動法人
グラウンドワーク西鬼怒
(栃木県 宇都宮市)

この会は従来から、アカガエルやドジョウなど田んぼまわりの生きものの保全活動に熱心に取り組んできました。そして、これらの活動は、里地里山の生態系の頂点に立つフクロウの保全活動に結びついていきました。フクロウの巣箱の開発・設置のほか、フクロウの餌場である里山の「落ち葉さらい」やエサとなるカエルなど田んぼまわりの生きものの保全など、この地域の生態系全体の保全に継続的に取り組んでいます。



フクロウの巣箱の設置



フクロウの巣立ち

ここを
チェック

（ フクロウと農村環境の関係 ）

管理された里山が減っている都市近郊農村で繁殖したフクロウの食餌内容は、調査によると、鳥類が7割を占め、その中でスズメとムクドリの子鳥が多いことがわかりました。フクロウは、スズメやムクドリの増加を抑える働きをするということになります。

都市近郊農村では、市街化が進むと住宅の軒下を営巣場所にして、スズメやムクドリが増え、イネの食害や果実の食害などマイナス面が増加します。しかし、農林部でフクロウを増やしていくと、その一部が都市近郊にも分布を広げて定着していくので、スズメやムクドリの増加が抑制できることとなります。つまり農業へのマイナス面が抑えられる可能性があるのです。これも、農村環境の広域を視野に入れた自然再生計画の一つといえるでしょう。

